

ご家族の方へ

お別れのときの患者さんの状態とその対処方法

お別れが近づいた時

お別れが近づく中で、患者さんの体には下記のような色々な変化がみられます。どれも、自然な経過の一つであり、患者さんは苦痛を感じることはありません。ご家族の方にも、どんな変化が起こるのかをあらかじめ知って頂くことで、できる限り慌てず対処できます。

- 徐々に寝ている時間が長くなります。
無理に起こしたりせず、眠らせてあげてください。周りの話し声は聞こえています。
- お食事や水分を摂る量が減ってきます。手足がむくむこともあります。
無理に食べさせようとしなくて大丈夫です。
- 時間や場所、時にはご家族のことも分からなくなったり、大声を出したり、会話のつじつまが合わないことがあります。
▶これは体のエネルギーが落ちてくる時の自然な経過です。
▶決して“おかしくなった”わけではありません。
そばに付き添い、穏やかに優しく見守ってください。つじつまが合わない時は、そのことを否定せず、話を合わせることで、安心されます。
好きだった歌や音楽を流すことも安心に繋がります。
- 唇が乾燥し、ネバネバしたものが口にたまったり、呼吸をする時にゴロゴロと音がすることがあります。多量の排便が起こることがあります。
▶患者さんは体の中をきれいにしてから旅立とうとされます。
お口の汚れは濡らしたガーゼで拭いたり、顔を横にするなど体の向きを変えて下さい。
- 手や足が冷たくなり、皮膚は青白く、時には赤紫色になります。また青あざなどの内出血が見られることもあります。
▶これは、血液の流れが悪くなってきているためです。
掛け布団で暖めたり、暖かい手で包んだり、さすってあげてください。
- 39度前後の高熱が出るときがあります。
▶これはお別れの前に残っている力を出し切ろうとする反応です。
氷枕で頭や脇の下を冷やして見守ってください。
- おしっこの量が少なく、濃くなってきます。
▶これはおしっこを作る力が弱くなるためです。
- 大きく呼吸をした後10～15秒息が止まり、また、呼吸する波のような息の仕方になります。あごを上下させ体全体で息を吸うといった不規則な呼吸になります。



にのクリニック

内科・消化器内科・在宅ケア

ご家族の方へ

お別れのときの患者さんの状態とその対処方法

お別れが来た時

- 呼吸をしなくなります。
- 心臓が動かなくなります。
- 揺り動かしても、声をかけても、全く反応がなくなります。
- 眼球が動かなくなり、まぶたは少し開いているか閉じています。

お別れの時の対処方法

①亡くなられる時は、予期せぬことがあったとしても、慌てて救急車を呼んだりせず、にのクリニックの医師にご連絡ください。

にのクリニック医師

救急車(119)や警察(110)に連絡はしないで下さい。
救急車を呼んで、私たちとの連絡なく救急病院に行かれた場合、希望しない延命措置が行われることがあります。

②連絡を頂いたら、医師が2～3時間以内に伺い、
死亡確認をします。

万が一、医師がすぐに伺えない場合には、訪問看護ステーションに依頼し、訪問看護師が先に伺います。

訪問看護ステーション

③ご家族や親しい皆さんで十分にお別れをしてから、葬儀屋等に連絡して頂ければ良いです。



にのクリニック

内科・消化器内科・在宅ケア